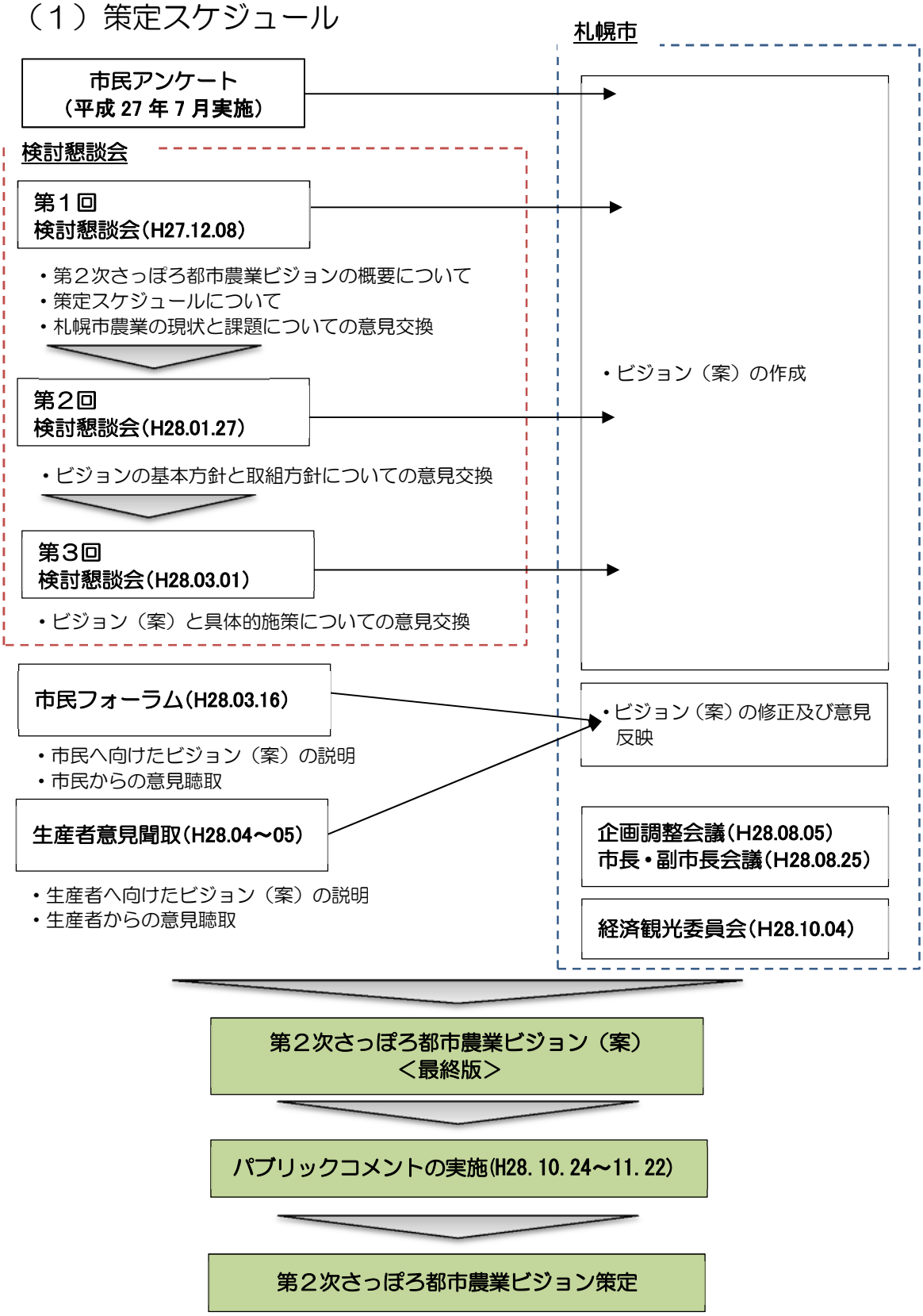
参　考　資　料

1　策定の経緯

（1）策定スケジュール



（敬称略）

組織・団体名	役　　職	氏　　名
国立大学法人　北海道大学	名誉教授	飯澤　理一郎
天使大学 看護栄養学部栄養学科	教授	荒川　義人
札幌市農業委員会	会長	漆﨑　智
札幌市農業協同組合	代表理事組合長	藤田　範彦
サツラク農業協同組合	代表理事組合長	大坪　慶博
札幌市農業協同組合	青年部部長	宮﨑　勝吉
札幌市農業協同組合	女性部部長	菅原　利恵
一般社団法人　札幌消費者協会	会長	桑原　昭子
一般社団法人 日本野菜ソムリエ協会札幌支社	シニア野菜ソムリエ	吉川　雅子

（３）第２次さっぽろ都市農業ビジョン策定検討懇談会の意見

「第２次さっぽろ都市農業ビジョン」の策定にあたり、札幌市内で農業に関わる有識者９名を委員として招聘（しょうへい）し、全３回の検討懇談会を開催しました。そこで出された主な意見を整理しました。

①農業の担い手確保に関すること

人口が集積している札幌における担い手の確保について、都市部ならではの特徴を活かした視点を持つことが必要という意見が出されました。例えば、専業農家だけでなく農業以外の収入源も持つ兼業農家を含めた担い手育成、高齢になっても営農を続けられる仕組み作り、女性農業者や若手農家の意見を取り入れる機会を作ることが挙げられました。

②農地の利用に関すること

農地の利用については、農地の最適化利用に向けた企業参入の在り方を検討していくべきという意見が出されました。また、「都市農業振興基本法」の成立を踏まえ、市街化区域内の在り方についても検討していく必要があるという考えも示されました。

③農業生産・農業振興に関すること

都市部における農業生産の強みとして「地産地消」を推進する方向が示されました。札幌産農畜産物の活用拡大に向け、販売場所の確保や飲食店・食品メーカーとの連携、給食での活用等をしていってはどうかといった意見が出されました。

また、さっぽろ伝統野菜については、その野菜がもつストーリーを活かした販路開拓をするとともに生産者側の課題への対応の必要性が示されました。

④札幌市民の農業への関わりに関すること

食育活動や農体験プログラムの重要性を確認し、継続的に活動を行っていくためには関係機関の連携や役割分担をしていくべきという意見が出されました。また、市民の農的体験活動の機会を増やしていくためには、農体験リーダーや北海道フードマイスターなど多様な人材の活用といった方法も示されました。

また、生産者と消費者が直接交流できる場としてマルシェなどの産直イベントを都心部で開催してはどうかという意見や、「さっぽろとれたてっこ制度」をはじめとした生産者の取組を周知するための情報発信の重要性についても意見が出されました。

⑤さっぽろ都市農業ビジョン全体に関すること

札幌市内で展開される今後 10 年間の農業の姿を考える際には、良い面と悪い面の両面を踏まえていく必要があり、変化する人口構造や農畜産物に対する需要等を踏まえた上で検討していくべきといった考えや、一人の農業者が土づくりから収穫まですべてを

担う農業の在り方だけでなく、行政やJAなどの関係者が関わりながら、農業を継続していく仕組みを考えていくべきといった意見が出されました。

検討懇談会の様子

２　市民アンケート結果の概要

（１）アンケート調査実施概要

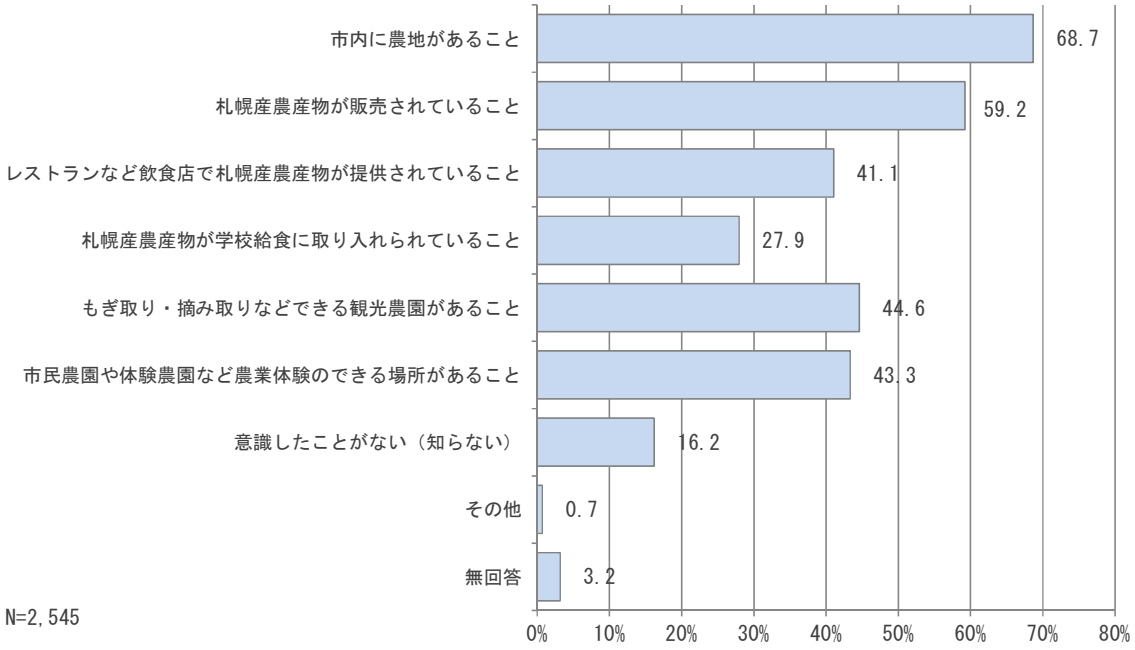
アンケート実施時期	平成 27 年（2015 年）7 月 9 日（木）～7 月 24 日（金）
調査方法	調査票を郵送し、返信封筒で回収
調査対象者	札幌市全域の 18 歳以上の男女 5,000 人
抽出方法	住民基本台帳からの等間隔無作為抽出
有効回答数	2,545 通
有効回答率	50.9％

（２）「札幌の農業について」調査結果の概要

①札幌の農業に関する認知度

対象者全体	「市内に農地があること」が 68.7%、「札幌産農産物が販売されていること」が 59.2%、「もぎ取り・摘み取りなど出来る観光農園があること」は 44.6%となっている。
性別	「市内に農地があること」、「意識したことがない（知らない）」では、男性が女性よりも高くなっている。
年代別	「市内に農地があること」の認知度は 30 歳代～50 歳代では 7 割を超えている。「札幌産農産物が学校給食に取り入れられていること」では、10 歳代が 38.5%と最も高く、次いで 40 歳代が 35.0%となっている。

あなたが、札幌の農業について知っているものにいくつでも○をつけてください。



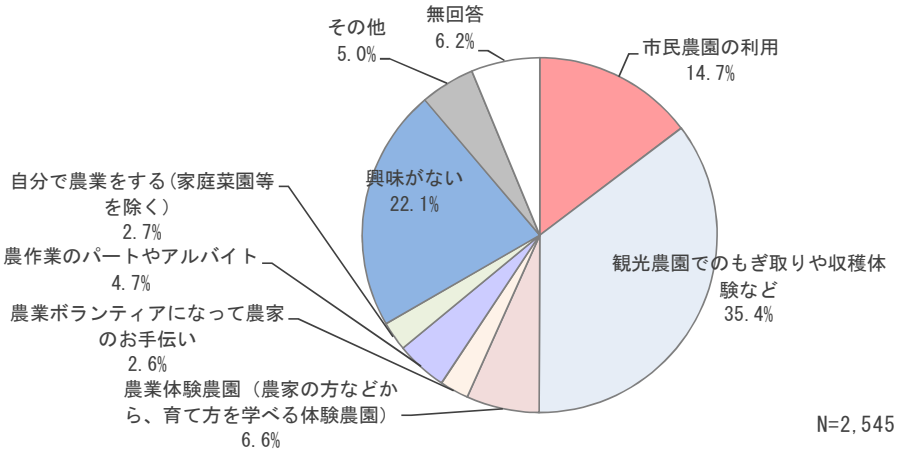
		市内に農地があること	札幌産農産物が販売されていること	レストランなど飲食店で札幌産農産物が提供されていること	札幌産農産物が学校給食に取り入れられていること	もぎ取り・摘み取りなどできる観光農園があること	市民農園や体験農園など農業体験のできる場所があること	意識したことがない（知らない）	その他	無回答
	対象者全体 (n=2545)	68.7	59.2	41.1	27.9	44.6	43.3	16.2	0.7	3.2
性別	男性 (n=943)	74.1	56.5	37.3	22.5	41.3	40.7	17.1	0.4	2.4
	女性 (n=1548)	66.0	61.2	43.7	31.7	46.8	45.4	15.8	0.8	3.1
	無回答 (n=54)	50.0	50.0	31.5	14.8	38.9	29.6	11.1	1.9	18.5
年代別	18～19歳 (n=39)	51.3	35.9	38.5	38.5	38.5	35.9	33.3	-	2.6
	20～29歳 (n=224)	56.7	49.1	39.7	22.8	35.3	29.5	27.7	0.4	1.3
	30～39歳 (n=339)	75.2	57.8	47.8	27.7	42.5	39.2	15.9	0.6	1.8
	40～49歳 (n=428)	74.1	56.1	43.5	35.0	43.7	43.9	14.5	0.5	1.4
	50～59歳 (n=420)	77.4	66.7	47.4	29.5	49.5	48.1	13.6	0.5	1.4
	60～69歳 (n=561)	68.8	62.9	38.9	23.9	48.7	50.3	14.1	0.9	2.7
	70歳以上 (n=482)	60.8	59.8	33.4	28.2	43.6	42.5	16.2	1.0	7.1
	無回答 (n=52)	48.1	50.0	28.8	13.5	36.5	25.0	13.5	1.9	19.2

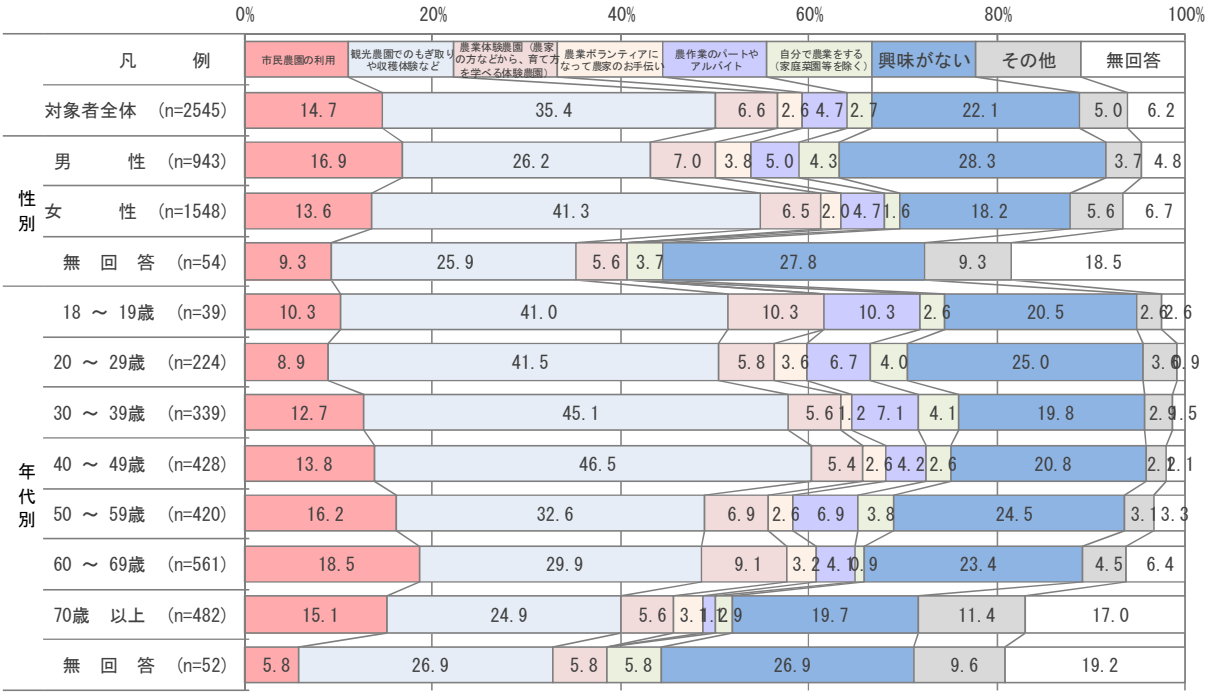
対象者全体スコアと比較して10%以上高い
対象者全体スコアと比較して10%以上低い

②農業への関わり方

対象者全体	「観光農園でのもぎ取りや収穫体験など」が 35.4%、「市民農園の利用」が 14.7%、「農業体験農園（農家の方などから、育て方を学べる体験農園）」は 6.6%となっている。なお、「興味がない」と答えた人は 22.1%であった。
性別	「観光農園でのもぎ取りや収穫体験など」では、女性が男性より 15.1 ポイント高いが、「市民農園の利用」では、男性が女性よりも高い。また、「興味がない」でも、男性が女性よりも高くなっている。
年代別	「市民農園の利用」では、60 歳代が最も高い。「観光農園でのもぎ取りや収穫体験など」では、10 歳代～40 歳代で 4 割を超えており、特に 40 歳代では 46.5%と最も高くなっている。

あなたが、今後、農業と関わるとしたら、どのような形で関わりたいと思いますか。次の中から 1 つに○をつけてください。

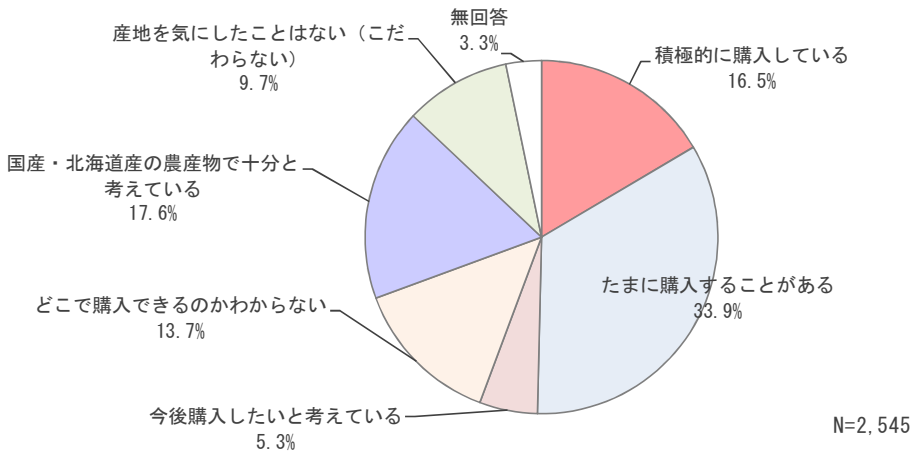


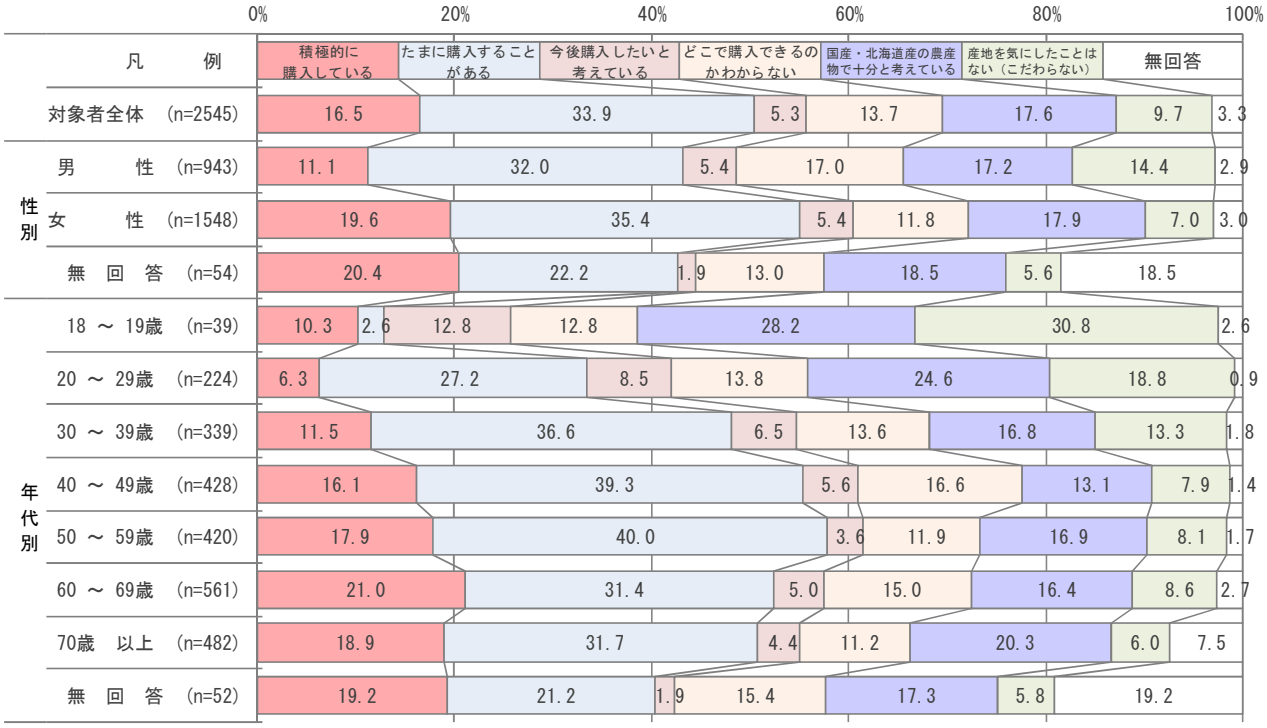


③札幌産農産物の購入

対象者全体	「たまに購入することがある」が 33.9%、「国産・北海道産の農産物で十分と考えている」が 17.6%、「積極的に購入している」は 16.5%となっている。
性別	「積極的に購入している」、「たまに購入することがある」では、女性が男性よりも高くなっている。
年代別	「積極的に購入している」、「たまに購入することがある」を合わせた割合は、50 歳代が最も高い。

札幌市で生産された農産物の購入について、あなたにあてはまるものを１つ選び、○をつけてください。

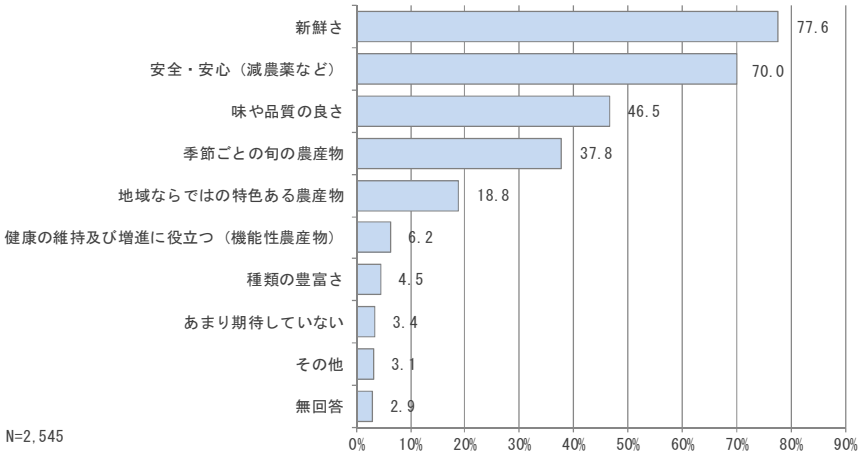




④札幌産農産物に期待すること

対象者全体	「新鮮さ」が 77.6%、「安全・安心（減農薬など）」が 70.0%、「味や品質の良さ」は 46.5%となっている。
性別	「新鮮さ」、「安全・安心（減農薬など）」、「味や品質の良さ」では、女性が男性よりも高い。
年代別	「安全・安心（減農薬など）」では、10 歳代が最も高い（82.1%）。「味や品質の良さ」では、10 歳代、20 歳代が 6 割を超えている。

あなたが、札幌産農産物に期待することは何ですか。次の中からあてはまるもの３つに○をつけてください。



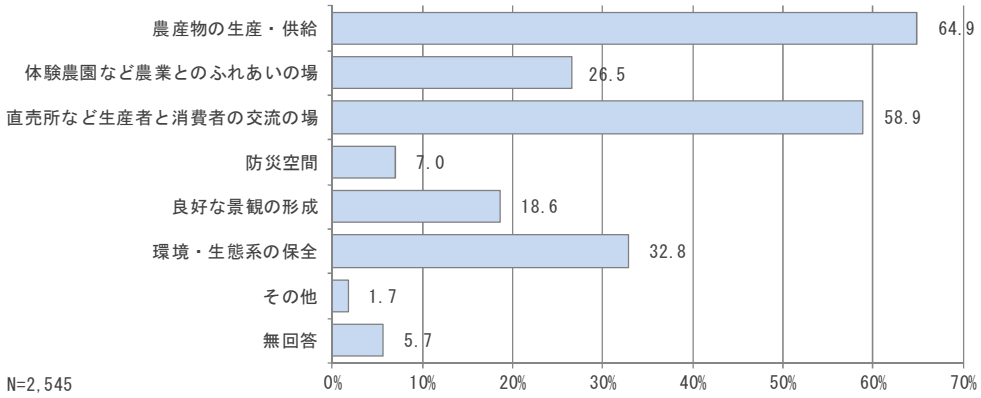
		新鮮さ	安全・安心（減農薬など）	味や品質の良さ	季節ごとの旬の農産物	地域ならではの特色ある農産物	健康の維持及び増進に役立つ（機能性農産物）	種類の豊富さ	あまり期待していない	その他	無回答
	対象者全体 (n=2545)	77.6	70.0	46.5	37.8	18.8	6.2	4.5	3.4	3.1	2.9
性別	男性 (n=943)	73.4	61.5	44.1	38.1	22.9	6.5	4.6	5.7	4.0	2.8
	女性 (n=1548)	80.6	75.7	48.6	37.7	16.4	6.0	4.6	1.9	2.5	2.5
	無回答 (n=54)	64.8	53.7	27.8	33.3	16.7	9.3	-	3.7	5.6	18.5
年代別	18～19歳 (n=39)	74.4	82.1	69.2	20.5	15.4	-	-	-	12.8	2.6
	20～29歳 (n=224)	72.8	67.9	60.7	29.0	23.7	5.8	4.5	4.9	5.4	1.3
	30～39歳 (n=339)	71.1	69.6	55.5	33.0	19.8	4.4	4.4	5.6	5.9	1.2
	40～49歳 (n=428)	79.4	74.5	52.3	34.8	18.0	3.5	4.9	1.6	3.0	1.6
	50～59歳 (n=420)	79.0	73.6	39.0	40.5	21.2	5.2	4.0	2.9	3.1	1.9
	60～69歳 (n=561)	80.9	71.8	43.1	43.0	17.6	6.6	4.3	2.9	1.2	2.1
	70歳以上 (n=482)	79.3	63.1	39.4	41.3	16.4	10.6	5.6	3.9	1.5	6.0
	無回答 (n=52)	65.4	50.0	25.0	32.7	17.3	11.5	-	3.8	5.8	19.2

対象者全体スコアと比較して10%以上高い
対象者全体スコアと比較して10%以上低い

⑤札幌の農業・農地に期待する機能・役割

対象者全体	「農産物の生産・供給」が 64.9%、「直売所など生産者と消費者の交流の場」が 58.9%、「環境・生態系の保全」は 32.8%となっている。
性別	「農産物の生産・供給」、「体験農園など農業とのふれあいの場」、「直売所など生産者と消費者の交流の場」では、女性が男性よりも高い。
年代別	「体験農園など農業とのふれあいの場」では、30 歳代が最も高く、「良好な景観の形成」、「環境・生態系の保全」では、10 歳代が最も高い。

あなたは、札幌の農業・農地にどのような機能や役割を期待しますか。次の中からあてはまるものいくつでも○をつけてください。



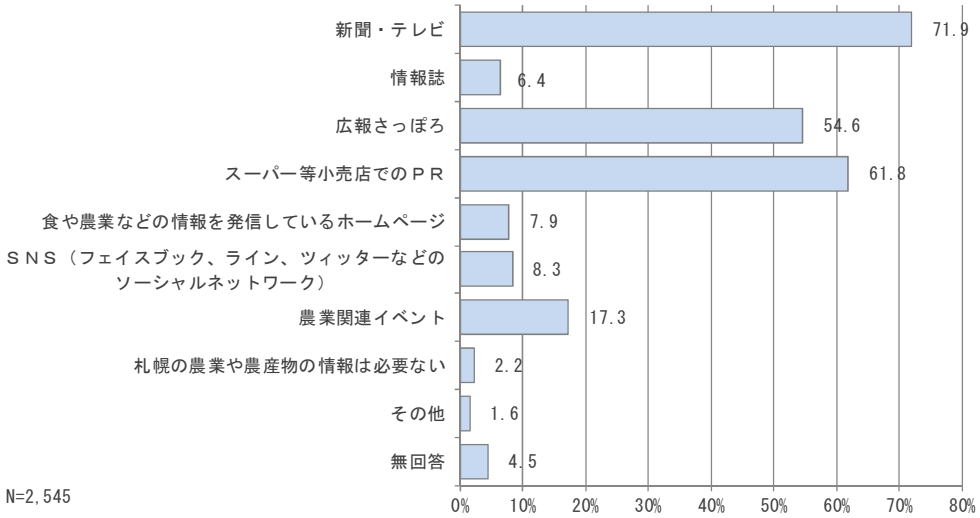
		農産物の生産・供給	体験農園など農業とのふれあいの場	直売所など生産者と消費者の交流の場	防災空間	良好な景観の形成	環境・生態系の保全	その他	無回答
	対象者全体 (n=2545)	64.9	26.5	58.9	7.0	18.6	32.8	1.7	5.7
性別	男性 (n=943)	63.2	25.6	53.6	8.6	23.2	35.7	1.9	4.7
	女性 (n=1548)	66.3	27.6	62.7	5.9	15.8	31.3	1.6	5.6
	無回答 (n=54)	51.9	11.1	42.6	9.3	16.7	27.8	3.7	24.1
年代別	18～19歳 (n=39)	66.7	28.2	25.6	2.6	33.3	48.7	2.6	2.6
	20～29歳 (n=224)	61.2	30.4	42.0	4.5	26.3	39.7	0.4	3.6
	30～39歳 (n=339)	68.7	36.6	50.1	6.8	17.1	31.3	1.2	2.7
	40～49歳 (n=428)	71.3	32.0	57.7	5.8	18.7	30.1	2.1	2.6
	50～59歳 (n=420)	65.5	21.9	63.8	6.4	18.6	37.4	3.1	4.0
	60～69歳 (n=561)	65.8	24.6	66.8	7.8	18.2	33.7	0.7	5.2
	70歳以上 (n=482)	58.3	20.7	65.1	8.9	15.6	27.6	2.1	11.4
	無回答 (n=52)	48.1	9.6	40.4	9.6	15.4	26.9	3.8	26.9

対象者全体スコアと比較して10%以上高い
対象者全体スコアと比較して10%以上低い

⑥札幌の農業や農産物の情報を得る手段

対象者全体	「新聞・テレビ」が 71.9%、「スーパー等小売店でのＰＲ」が 61.8%、「広報さっぽろ」が 54.6%となっている。
性別	「広報さっぽろ」、「スーパー等小売店での PR」は、女性が男性よりも高いが、「食や農業などの情報を発信しているホームページ」、「農業関連イベント」では、男性が女性より高くなっている。
年代別	「新聞・テレビ」では 10 歳代、「広報さっぽろ」では 60 歳代がそれぞれ最も高くなっている。「ＳＮＳ（フェイスブック、ライン、ツィッターなどのソーシャルネットワーク）」では、10 歳代が 41.0%、20 歳代が 30.4%と他の年齢層と比べて高くなっている。

あなたは、札幌の農業や農産物の情報を何から得たいですか。次の中からあてはまるもの３つに○をつけてください。



		新聞・テレビ	情報誌	広報さっぽろ	スーパー等小売店でのＰＲ	食や農業などの情報を発信しているホームページ	ＳＮＳ（フェイスブック、ライン、ツィッターなどのソーシャルネットワーク）	農業関連イベント	札幌の農業や農産物の情報は必要ない	その他	無回答
	対象者全体 (n=2545)	71.9	6.4	54.6	61.8	7.9	8.3	17.3	2.2	1.6	4.5
性別	男性 (n=943)	72.6	6.9	52.1	54.7	10.9	7.8	19.7	3.7	2.2	4.1
	女性 (n=1548)	72.4	6.1	56.7	66.7	6.3	8.7	15.8	1.4	1.0	4.1
	無回答 (n=54)	46.3	7.4	37.0	46.3	－	5.6	16.7	1.9	7.4	20.4
年代別	18～19歳 (n=39)	89.7	7.7	10.3	53.8	23.1	41.0	15.4	2.6	2.6	2.6
	20～29歳 (n=224)	64.3	5.8	30.4	62.5	9.4	30.4	18.3	3.1	1.3	3.1
	30～39歳 (n=339)	62.2	6.2	55.2	57.8	9.7	16.8	16.5	3.8	1.2	2.4
	40～49歳 (n=428)	70.1	7.0	56.1	64.3	11.0	8.6	16.6	1.4	2.1	3.0
	50～59歳 (n=420)	73.1	6.7	58.1	64.5	7.6	5.7	16.9	2.4	0.7	2.6
	60～69歳 (n=561)	79.0	6.1	64.0	63.3	5.7	0.7	20.1	2.0	1.4	4.3
	70歳以上 (n=482)	76.1	6.8	55.4	60.4	5.4	0.6	15.1	1.5	1.7	8.1
	無回答 (n=52)	44.2	3.8	38.5	48.1	－	5.8	17.3	3.8	7.7	21.2

対象者全体スコアと比較して10%以上高い
対象者全体スコアと比較して10%以上低い

３　札幌市の農業の現状

（１）農家と担い手

①農業応援団・農業ヘルパー・援農ボランティア等

農業や自然とのふれあい、市民農園の利用など、農業に関心を持つ市民の中には、ボランティアやパート・アルバイト等の形で農業に関わりたいという意向もみられます（61 ページ参照）。

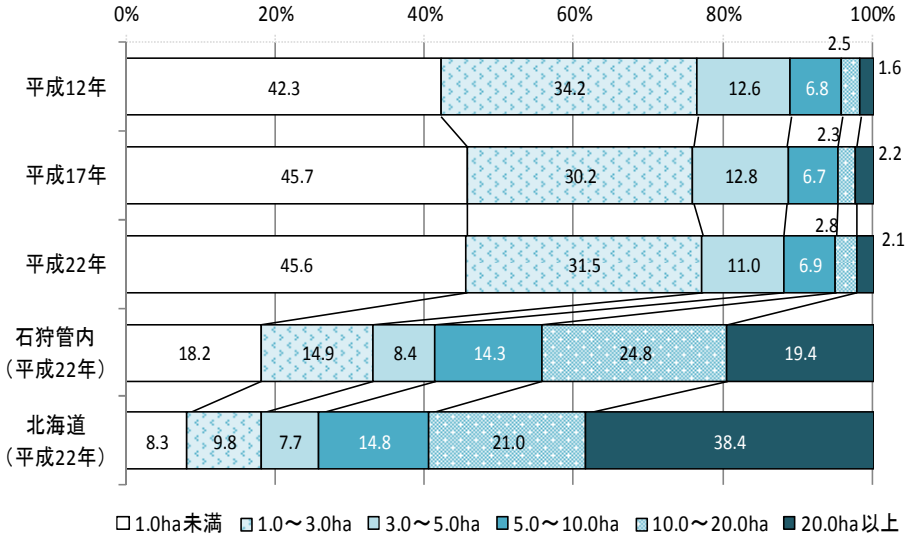
こうした中、札幌市では農業に参加意欲のある市民等を対象に、農業に関わっていくために必要な知識・技術を内容として実習・講義を行う市民農業講座「さっぽろ農学校」専修コースを平成 17 年に開設し、毎年 24 名が受講しています。

（２）農業経営

①経営耕地規模別農家数

経営耕地面積別に販売農家をみると、1.0ha 未満の農家の割合が平成 22 年で 45.6%と最も多く、1.0～3.0ha 未満の農家を併せると、全体の８割近くを占めています。

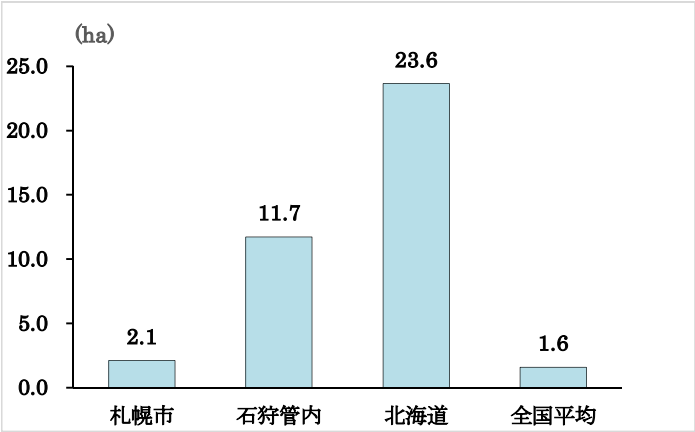
図表 25　経営耕地面積別農家数の構成の推移（販売農家）



（資料：農林業センサス(平成 12 年、17 年、22 年)）

労働集約型農業※26を主体とする札幌市の１戸あたりの経営耕地面積は 2.1ha で、土地利用型農業※27を主体とする北海道の 23.6ha、石狩管内の 11.7ha と比べるとかなり小規模ですが、全国平均の 1.6ha と比べるとやや大きい規模となっています。

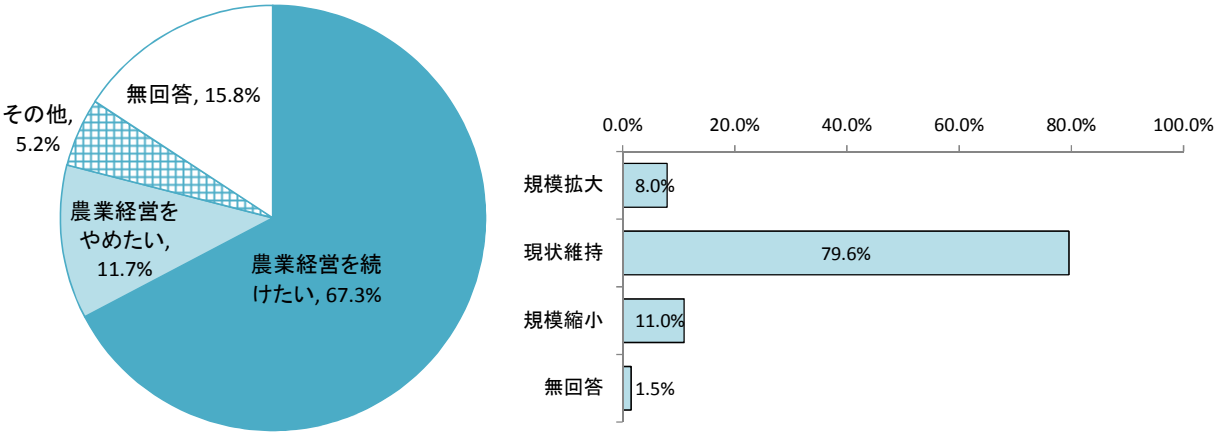
図表 26　農家１戸あたり経営耕地面積の比較



（資料：「2015 年農林業センサス」）

農地の利用及び農業経営に関する調査（平成 22 年）によると、今後５年間の農業経営の意向について、全体の 11.7%が農業経営をやめたい、67.3%は農業経営を続けたいとしています。農業経営を続けたいとした回答者の約８割は、経営規模を現状維持としており、規模拡大を考えているのは、8.0%でした。

図表 27　今後の農業経営についての意向



（資料：農地の利用及び農業経営に関する調査）

※26　労働集約型農業：キュウリやトマトなど栽培作業の機械化が適さず、作業の大半に多くの労働力が必要となる農業
※27　土地利用型農業：米、麦、大豆など栽培作業が機械化に適し、大規模に展開される農業

（3）農地

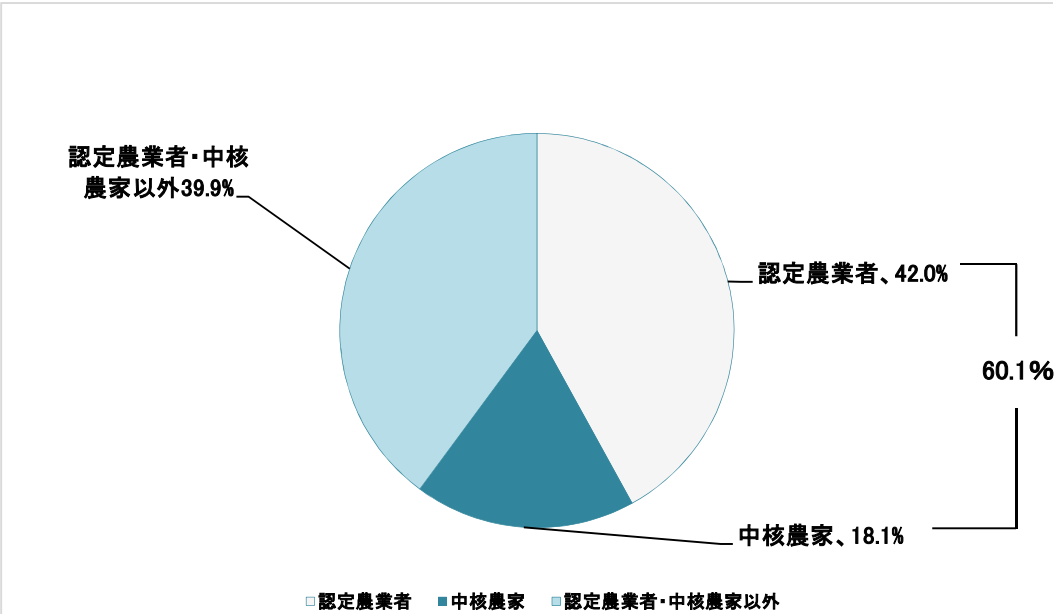
①認定農家・中核農家の農地集積状況

札幌市における「①認定農業者」および「②中核農家」の平成 27 年度における認定・登録状況は図表 28 のようになっており、①と②を合わせた農地集積面積の合計は 1,021ha、平成 27 年農林業センサスによる市の経営耕地面積 1,698ha の 60.1%を占めています。

図表 28　認定農業者及び中核農家の認定・登録状況と農地集積面積（平成２７年度）

	① 認定農業者	② 中核農家	①+② 合計	H27 年　農林業センサス結果		全体に占める割合(%)
登録農家数(戸)	80	85	165	農家戸数(戸)	807	20.4
農地集積面積(ha)	713	308	1,021	経営耕地面積(ha)	1,698	60.1

図表 29　経営耕地面積に占める認定農業者・中核農家の農地集約面積の割合



（資料：札幌市）

＊農地集積面積は、市農政部調べによる。（当該年度において認定農業者または中核農家が市街化調整区域内の自己所有農地及び利用権設定により貸借している農地の合計面積）

（資料：札幌市 HP　認定農業 https://www.city.sapporo.jp/keizai/nogyo/keieisienn/ninteinougyosya.html
中核農家 https://www.city.sapporo.jp/keizai/nogyo/keieisienn/tyuukakunouka.html

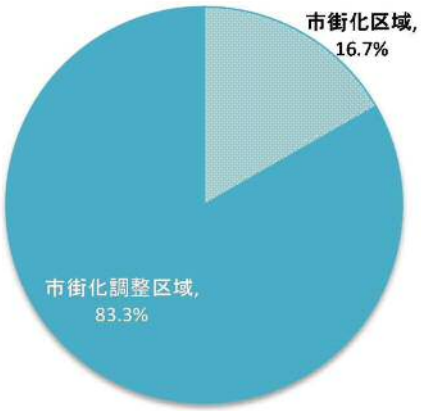
②市街化区域における農地の状況

札幌市内の農地の状況を整理すると、市街化区域内は 16.7%、市街化調整区域内は 83.3%の比率で農地があります。

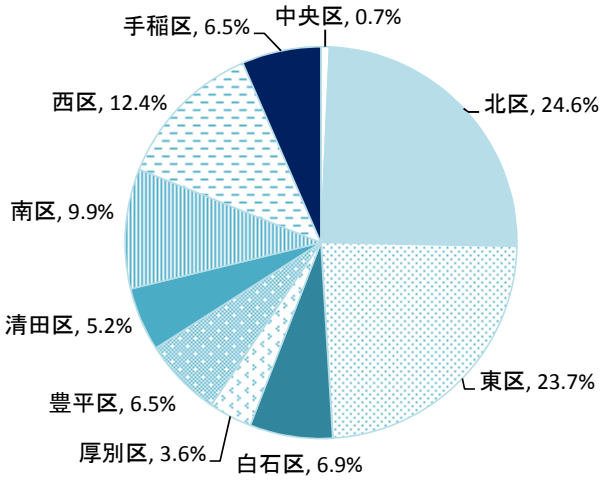
市街化区域内の面積割合を区毎にみると、北区が最も高く 24.6%、次いで東区が 23.7%となっており、この２区が市街化区域の農地の半数を占めています。

図表 30　札幌市の農地の状況

（市街化区域と市街化調整区域での割合）



（市街化区域の区毎面積割合）



（資料：札幌市）

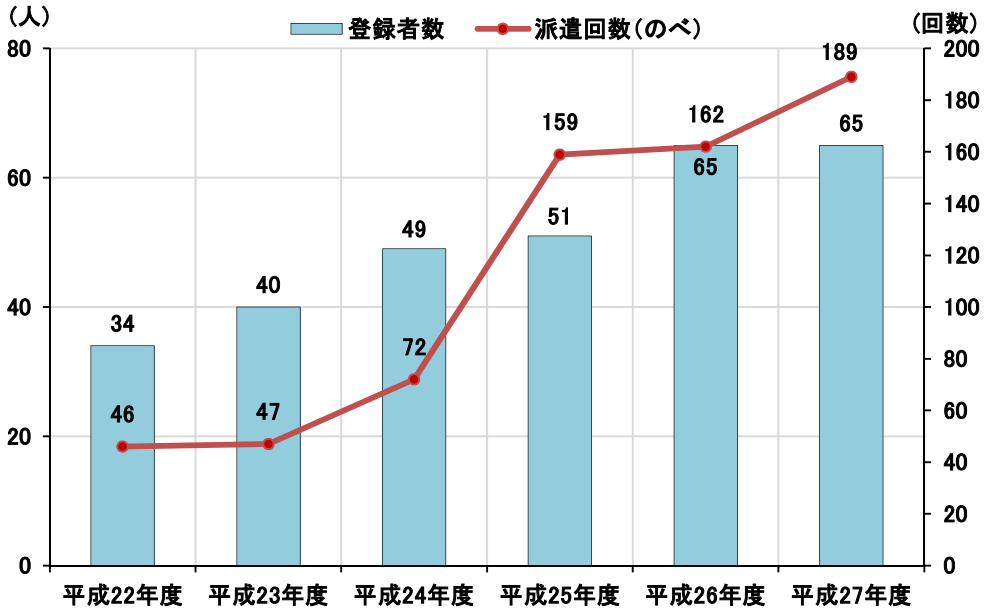
（4）市民交流の取組

①食農教育と農業体験機会の充実

札幌市では、食農教育の取組として、教育委員会とサッポロさとらんど、近郊農家等との協力のもとに農業体験事業等が実施され、小中学校での農業体験学習の実施校数は、58.7%と平成 28 年目標の 50%を超えています。

食農教育や農体験をサポートする人材として、市民農業講座「さっぽろ農学校」の修了生など一定の農業技術や知識を習得した市民等を「農体験リーダー」として認定し、学校の総合的な学習の時間やクラブ活動等の課外活動等に派遣する制度があります。登録数は平成 26 年で 65 人となりましたが、平成 27 年は横ばいでした。派遣回数は、189 回と年々増加しています。

図表 31　農体験リーダー登録数・派遣回数



（資料：札幌市）

また、市民グループと共催し、親子が農作物の栽培体験を通して食と農の重要性を学ぶ事業や、「市民参加型さっぽろ元気ファームモデル事業」として、平成 24 年から 26 年にかけて、農家、NPO、行政、企業等の協働によるモデル体験農園を開設するなどの取組を行い、3 年間で延べ 310 人が参加するなど、市民グループの自主的な活動として定着してきています。

②地産地消

ア.「さっぽろとれたてっこ」・「さっぽろハーベストランド[※28]」

「さっぽろとれたてっこ」では、札幌産農産物の市内供給促進や食育活動、野菜料理講習会の開催等を通じて、地産地消を推進するための取組として実施しています。農家の高齢化等から出荷量は伸び悩んでおり、取扱店の数も伸びていません。

また、札幌市近郊の市町村や JA と連携して平成 21 年から開始した「さっぽろハーベストランド」でも、地産地消を推進するための活動を推進しています。

イ．食関連企業等との連携

地元農産物を使用した食ブランドづくりを推進するため、「スイーツ王国さっぽろ推進協議会」と連携し、スイーツに使用する可能性のある農産物、素材等について札幌市内及び近郊の生産者等から、パティシエ等の製菓関係者に直接紹介する「さっぽろスイーツマルシェ」を開催するなど取引のきっかけづくりを実施してきました。

※28　「さっぽろハーベストランド」：石狩管内の５農協（JA さっぽろ・JA 道央・JA いしかり・JA 北いしかり・JA 新しのつ）が、生産者と安全・安心の確保に取り組んでいる、さっぽろ圏産の農畜産物ブランドのこと

４　都市農業フォーラム開催概要

（１）開催概要

開催日時	平成 28（2016）年 3 月 16 日（水）　13：30～16：00
開催場所	わくわくホリデーホール（札幌市民ホール）　第１＋第２会議室
開催内容	①講演 「都市農業の魅力」 農的社会デザイン事務所　代表　蔦谷　栄一　氏 「さっぽろ農業の現状と課題、将来像」 札幌市経済局農政部　農政課長　中田　三喜男　氏 ②パネルディスカッション ファシリテーター：飯澤　理一郎　氏（北海道大学　名誉教授） パネリスト：荒川　義人　氏（天使大学看護栄養学部　教授） 藤田　範彦　氏（札幌農業協同組合　代表理事組合長） 桑原　昭子　氏（一般社団法人札幌消費者協会　会長） ③フォーラム参加者を対象にしたアンケート調査
参加者数	105 人

フォーラム案内チラシ

（2）アンケート調査結果の概要

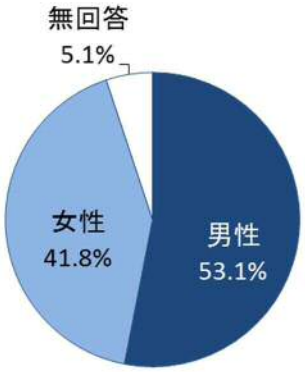
調査対象者	都市農業フォーラム参加者　105 人
有効回答数	98 通
有効回答率	93.3%

①回答者の属性

・性別

回答者の性別は、「男性」が 53.1%、「女性」が 41.8%となっています。

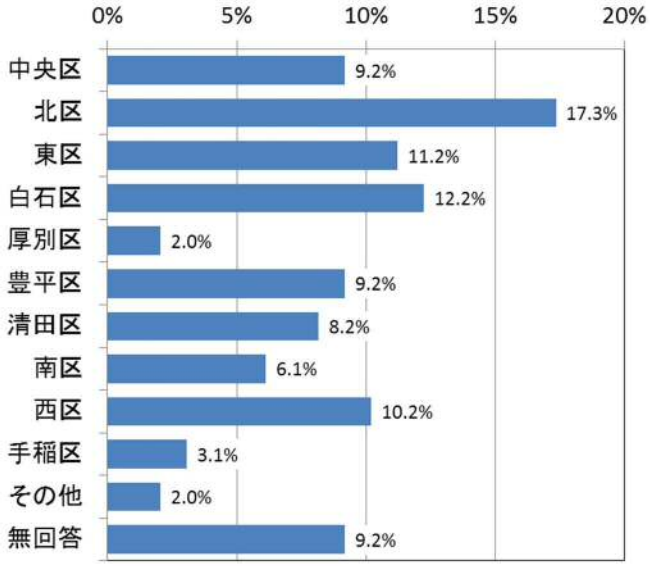
図表 32　回答者の性別（N=98）



・居住地

回答者の居住地は、「北区」が 17.3%、「白石区」が 12.2%、「東区」が 11.2%、「西区」が 10.2%となっています。

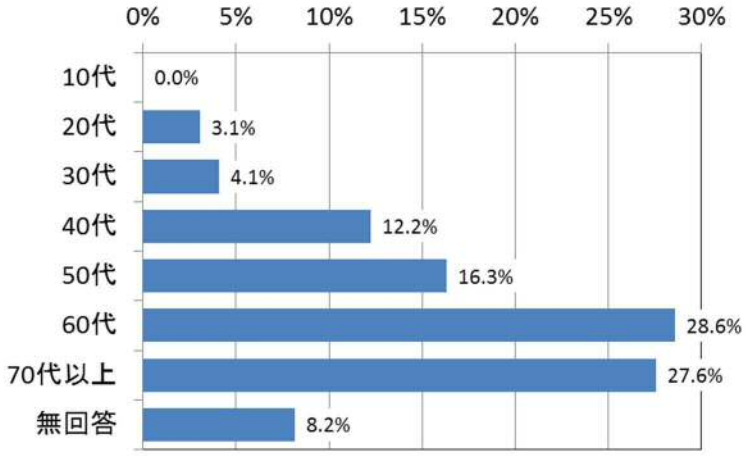
図表 33　回答者の居住地（N=98）



・年齢

回答者の年齢は、「60 代」が 28.6%、「70 代以上」が 27.6%となっています。

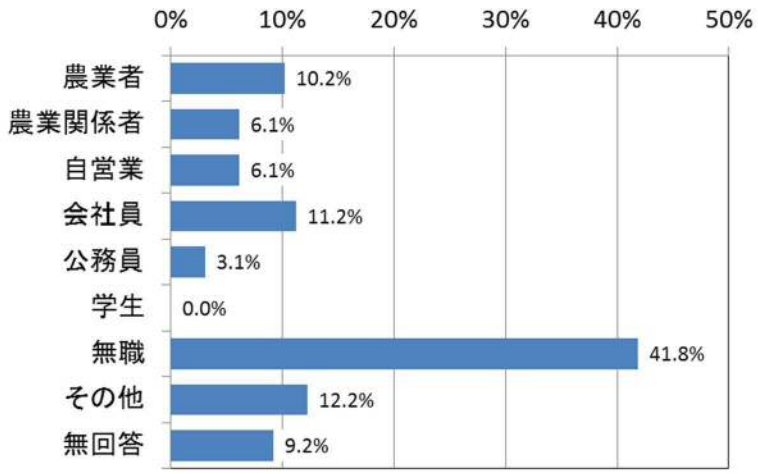
図表 34　回答者の年齢（N=98）



・職業

回答者の職業は、「無職」が 41.8%となっています。

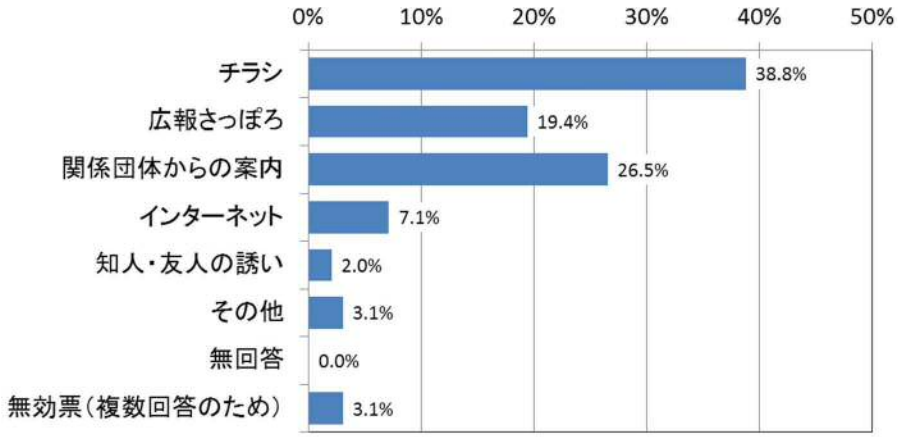
図表 35　回答者の職業（N=98）



②フォーラムの周知方法

このフォーラムを何で知ったかについては、「チラシ」が 38.8%、「関係団体からの案内」が 26.5%、「広報さっぽろ」が 19.4%となっています。

図表 36　セミナーの周知方法（N=98）MA



③フォーラムプログラムの感想

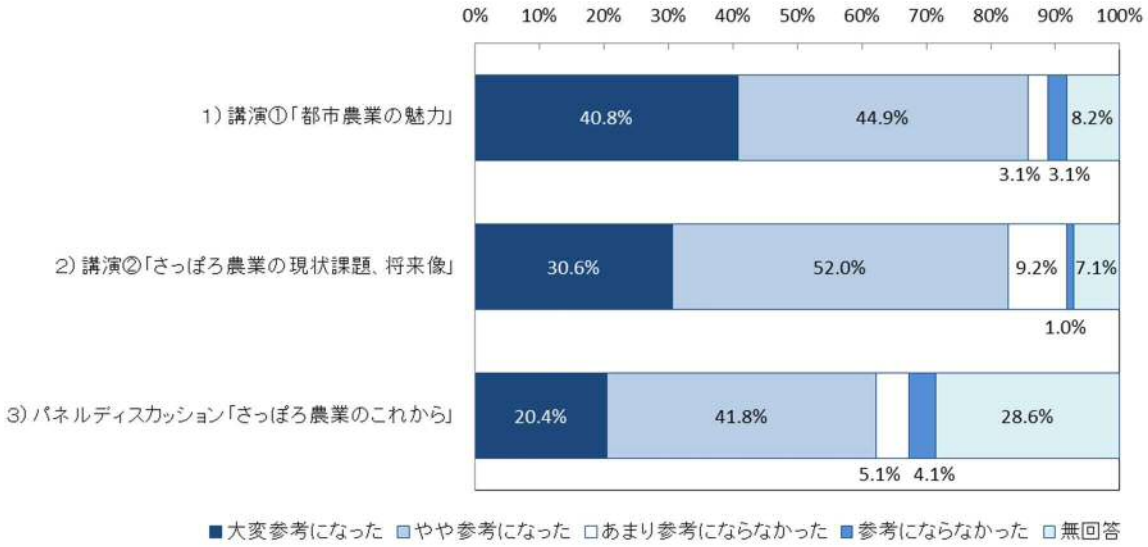
フォーラムの内容について、それぞれ参考になったかをたずねました。

「１）講演①「都市農業の魅力」」については、「やや参考になった」が 44.9%と最も高く、次いで「大変参考になった」が 40.8%、「あまり参考にならなかった」「参考にならなかった」がそれぞれ 3.1%となっている。

「２）講演②「さっぽろ農業の現状課題、将来像」」については、「やや参考になった」が 52.0%と最も高く、次いで「大変参考になった」が 30.6%、「あまり参考にならなかった」が 9.2%、「参考にならなかった」が 1.0%となっている。

「３）パネルディスカッション「さっぽろ農業のこれから」」については、「やや参考になった」が 41.8%と最も高く、次いで「大変参考になった」が 20.4%、「あまり参考にならなかった」が 5.1%、「参考にならなかった」が 4.1%となっている。

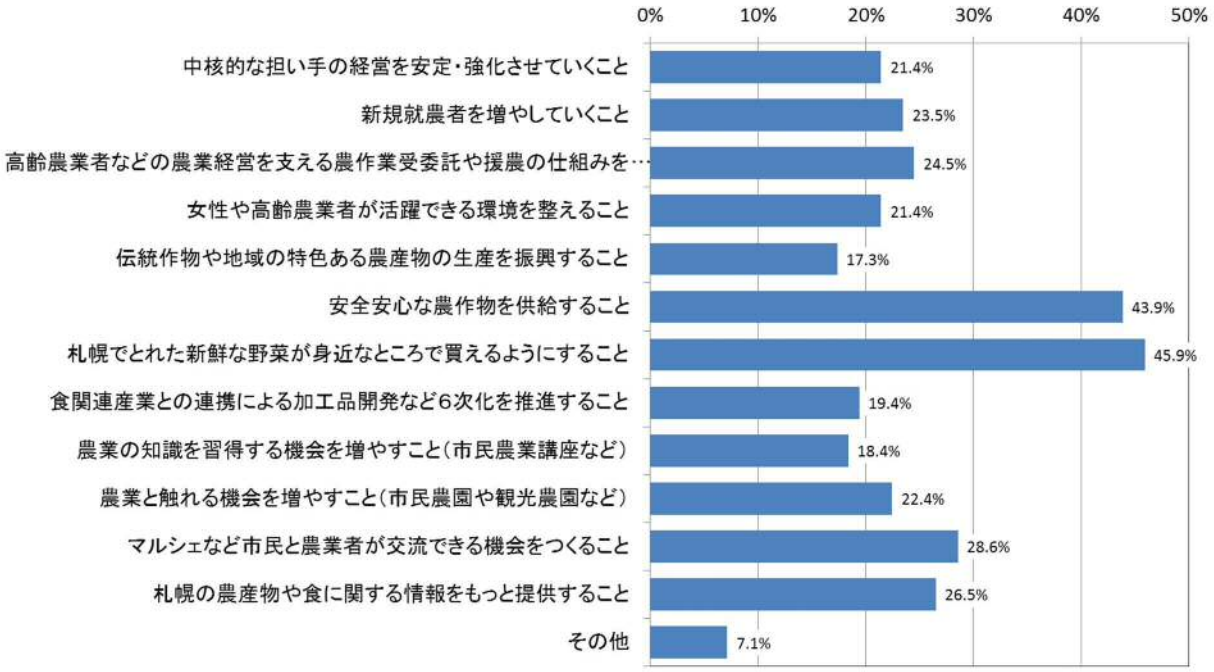
図表 37　フォーラムプログラムの感想（N=98）



④札幌市の今後の農業施策に期待すること

札幌市の今後の農業施策に期待することについては、「札幌でとれた新鮮な野菜が身近なところで買えるようにすること」が 45.9%で最も高く、次いで「安全安心な農作物を供給すること」が 43.9%となっています。また、「マルシェなど市民と農業者が交流できる機会をつくること」が 28.6%、「札幌の農産物や食に関する情報をもっと提供すること」が 26.5%となっています。

図表 38　札幌市の今後の農業施策に期待すること（N=98）MA



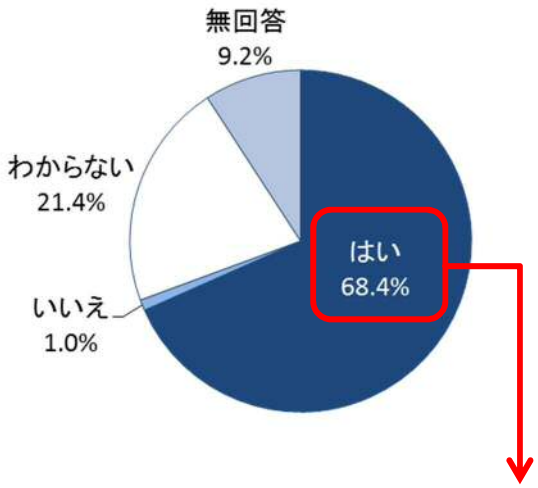
⑤農業や農的な活動との関わり

今後、農業や農的活動に関わっていこうと思うか、また「思う」と回答した人には、どのような関わり方をするかたずねました。

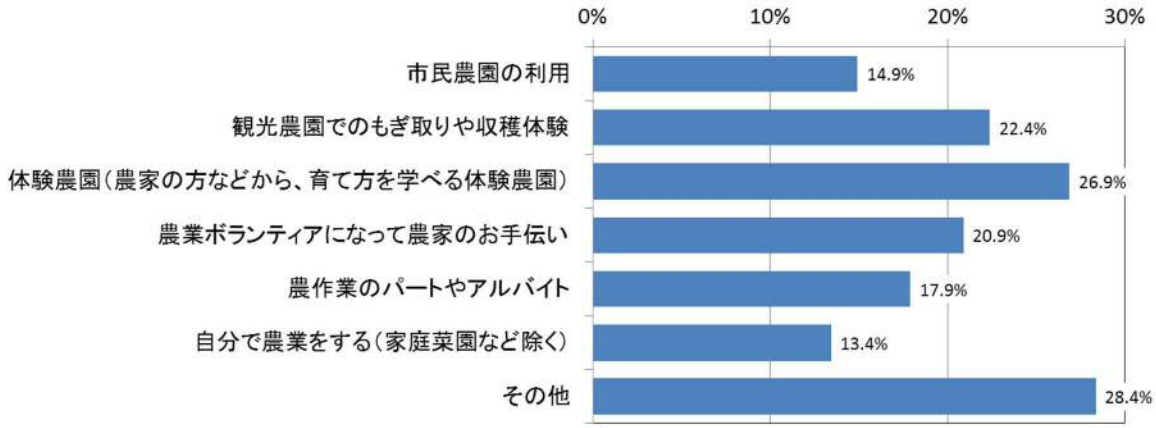
農業や農的活動に関わっていくと答えたのは 68.4%で、「わからない」が 21.4%となっています。

農的活動に関わっていくと答えた人がどのような関わりをしていくかという問いには、「体験農園」が 26.9%、「観光農園でのもぎ取りや収穫体験」が 22.4%、「農家ボランティアになって農家のお手伝い」が 20.9%となっています。「その他」が 28.4%で最も多く、その回答内容としては、「地産地消に向けた取組の協力」「積極的に札幌産農産物を購入する」「イベントや体験農業ツアーの開催」といったものが挙げられました。

図表 39　農業や農的な活動に関わっていきたいか（N=98）



図表 40　農業や農的な活動に関わる方法（N=67）



⑥さっぽろ農業について普段感じていること、今後の展開に関する意見等（自由記述）

【情報発信】

- 札幌農業について見聞が広がりました。もっともっと、札幌で収穫された野菜、果物を食しようと改めて感じました。大変勉強になりました。
- まだまだ札幌市内に農業を知ってもらっているとは思えず、農家、札幌市、JA と一体となってアピールしてほしいです。
- 札幌市は道内で 10 位以内に入る農産物がたくさんあるのに、市民があまり自分の市でとれるものについて知らないことが多いように感じる。（他の道内市町村出身の人は、自分の地元の農産物や魚貝類について自慢できることを話せる人が多いように感じる）
- 札幌市内でこんなに農作物を作っていることを初めて知りました。特に南区の果樹園の多さにびっくりです。10 年間札幌に住んでて驚かされました。もっと広く市民にも知らせる場を設けてもいいのかなと思います。

【札幌産農産物の流通・販売について】

- スーパーには高知や宮崎の促成栽培の野菜が並ぶが市内で採れた野菜を食べられるような未来の子供達にそういう野菜を食べさせてあげられるような農政をすすめて欲しい。
- 市民にさっぽろ農業を強力に PR し、更に売店の確保が必要。現在は知らない市民が多いと思います。
- 市内産の野菜をもっとまとめて、身近に買える所があるといいです。
- 地元にもっと札幌産が出回れば良いと思います。せっかく玉ねぎを作っても、東京で売られているのは残念です。

【農家との交流の場】

- 札幌の市街で農家の人と交流できる場所や行事があるともっと農業を身近に感じることができるのではないかと思います。（街中で直販。農家の人が教える料理教室など）
- 市民農園、体験農園等の活動はよく見聞するが、肝心の農業者の形が見えない。「とれたてっこ」等のラベルの付いたものはスーパー等でよく見かけるが、出来ればそれを作っている人にもっと近づけるような形にならないのか。
- 若い人たち（学生）に農業と触れる機会を増やしてあげてほしい。体で目での大切さを学校などで。
- 市民と生産者と話し合ったり、食したりする場を設けられたら。

【伝統野菜】

- さっぽろの伝統野菜をもっと知りたい。できれば市民サイドで伝統野菜を作っている農家等の訪問も企画してほしい。

・歴史と関連した伝統野菜の PR や料理レシピの提供を通して食文化の発信がされたらいいと思います。

【札幌らしい都市農業の実践】

・大規模農家が不可能な札幌で新規に農家をやりたい場合は付加価値を付けた都市型農家をやらなければなりません。しかし、現行の制度では新規就農する事は非常にリスクが高く、民間の感覚ではとても Pay できるものではありません。これでは担い手がふえる訳がなく、考え方をまったく改めなければ未来はありません。（年間数名とかそんな業界は農業界しかありません）現行制度ではなく、準農家的な営農を支援していただいて、新しい人材を確保していかないと（しかもすぐに）いけないと思います。札幌市にはそういう意味で先進的な都市農家を期待します。（北海道的農業ではなく）
・札幌だから出来る農業、慣行、有機、自然栽培が共に生き消費者が気軽に来てもらえるように（障がいを持っている方も含めて）。

【農地の取得・新規就農】

・農政課は農地を探すまでのサポートをしてほしい。
・就農を希望していても農地が手に入りづらい。
・新しい担い手を集めるのには子供の頃から農業に親しみをもてる環境づくりが大事かなと思います。学校の授業で取り入れるなどしてもいいかも。もっと農業の魅力を感じてもらえるようにするのがいいかなと思います。